
エセお伽話

極超短波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エセお伽話

【Nコード】

N7535H

【作者名】

極超短波

【あらすじ】

お伽話は、『むかし、むかし』で始まり、『めでたし、めでたし』で終わります。しかし、本当にめでたしか。という疑問と悪ふざけでできています。

第1話 赤ずきん（前書き）

赤ずきんです。今思うとお母さん怖いです。狼出る森に一人とか。

第1話 赤ずきん

初めまして。私赤ずきん今日は、お母さんに頼まれて、病気になったおばあちゃん家にお見舞いに行くの！まってね。おばあちゃん！！

そう心に決めたのにいきなり問題発生！おっ狼さんが……お花畑に行けって。確かにお花畑でお花を摘めば、おばあちゃんも喜ぶだろうけどお母さんに寄り道しないようにって言われてるし……。まっいつか。

狼さん。ありがとう。私、お花畑を摘んでから行くわ。それじゃ。バイバイ。

赤ずきんが去った後銀色の狼が黒い狼に歩み寄り声をかける。

「大丈夫だった。ジョン。」
ジョンと呼ばれた黒い狼が答える。

「ああ。予定会敵地点からは、外れたよ。後は彼女の運しだいだ。で。部隊配置はどうだ。」

銀色の狼

「はっ強襲部隊1578名、決死隊全四部隊480名、機動歩兵7865名、補給部隊1247名全部隊配置完了しました。また偵察部隊から敵は、布陣を敷きこちらを待ち受けているそうです。」

銀色の狼の報告を黙って聞いていた黒い狼が口を開く。

「緋冑は、どうしている。」

「偵察部隊の報告では一番奥に陣取っているそうです。それと……体長が以前の3倍近くまで成長しているらしいです。」

「そうか……。全部隊に通達！ただ今現時刻を持ってオペレーション『ダウンフォース』を発動。全部隊作戦行動に移れ。今日でけりを付けるぞ。」

「はっ了解しました。」

この日狼と熊の長年に渡る争いに終止符が打たれた。

18時間に渡る激闘の末、熊側の司令官、赤毛の巨熊『緋胃』と狼側の司令官、黒毛の狼『ジョン』の二人が相打ち、統率が無くなつた熊勢を狼側は副司令を司令官とし壊滅させていくのであった。時に1582年冬のことであった。

えっ。赤ずきん？おばあちゃん家に行ったんじゃないの？

第1話 赤ずきん（後書き）

ここまでお読みいただきありがとうございます。次はマッチ売りの少女です。

マッチ売りの少女（前書き）

マッチ売りの少女です

マツチ売りの少女

太陽が顔を隠し星々が輝き出す頃、街は光に溢れていた。今日はクリスマス道行く人々も家に帰ろうと足速に歩いて行く。そんな街のきらびやかな風景とは打って変わりお世辞にも上等とは言えない服を着た少女がいた。

「マツ……………りませんか。」

彼女はマツチ売りの少女後12時間の命の娘。

「……………チ……………いませんか。」

誰も彼女を相手にしない。

「どうして売れないの。」

誰にも相手にされず今にも泣き出しそうにその碧い瞳に涙を溜める少女。

このまま冷たくなっていくのか。しかしそれは、別世界の話何故ならこれは、エセお伽話。

その時彼女に話かける男がいた。しかし客ではない。断じてない。なぜなら、

「ナカナイデ、ナカナイデ、Boss。Look。ホラLookヨBoss。ホラ上腕二頭筋ダヨ。アツ。ナカナイデナカナイデ。」

彼は12月下旬の夜という時にも関わらずブーメランパンツ一丁で湯気をたてているマツマツチヨマンだから。

「ナニヤッテンダー！ボブ！Bossヲナカストハ、ソナニシニタイノカ！」

別のマッチョがボブと呼ばれたマッチョに殴り掛かる。こちらのマッチョは一見肥満のように見えるが全て筋肉であった。

「あつやめてオリバー。ボブは悪くないよ。自分がふがないから。」

少女がオリバーと呼ばれたマッチョの腹筋にしがみつきとめようとする。

「OK・Boss。」

オリバーは振り上げていた丸太のような腕を降ろした。

「ボブ！イノチビロイシタナ。Bossニ感謝シロ！裏方ニマワレ！」

「Yes・Leader・『例の件進めておきます。』」

「シツカリヤレヨ。」

「ごめんね。オリバーもう泣かないって決めたのにごめんね。」

ついには泣き出してしまった少女。

「Bossガ悪インジャアリマセンヨ。タダ、時期ガ悪カツタダケデス。サア今日ハ、モウ帰リマシヨウ。」

オリバーがその丸太のような手を差し出す。

「でも……」

悩む少女まだマツチヨは一人も売れていない。そうだろうマツチヨを買ったとして何に使う。観賞用か観賞用なのか。

「大丈夫デスヨ。Boss。」

オリバーは、微笑みんだ。少女はもう何も言わず、オリバーの手を握りマツチヨマンズ50人を連れて家路についた。

少女のクリスマスは凄い物だった。世界各国の有名人が参加し生オケストラが演奏し、一流シェフが腕を振るい、オペラ歌手が歌う。会場は豪華客船を貸し切り、船までの移動はリムジン回りを軍隊が警護しながらであった。すべては、少女のためにマツチヨマンが仕組んだことであつたとさ。

マッチ売りの少女（後書き）

ここまでお読み頂きありがとうございます。原作のマッチ売りの少女はあの最後が納得いきません。なので別ヴァージョンもする予定です。次回は桃太郎です。

桃太郎（前書き）

桃太郎です。小さなクイズがあります。

桃太郎

昔々ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは山に芝刈りにおばあさんは川に洗濯に行きました。そして、あれこれあってモモ・夕口は鬼が島に鬼退治に行くことになりました。

「おじいさん、おばあさん、行つてきます。」

モモ・夕口は、おじいさんとおばあさんに笑顔でそういいましたが目は潤んでいました。モモ・夕口は知っていました。自分では鬼に勝てないことを。しかし、鬼退治に行けば鬼の討伐に関わらず殿様から褒賞を受け取ることができおじいさんとおばあさんに楽をさせてあげられます。その思いでモモ・夕口は鬼退治に志願したのでした。

時は移り鬼が島沖洋上

「コラアそこ何やつとるか！……魚雷なんか積んでどうする……！爆弾を積まんか爆弾を……！」

「第八超重爆隊爆撃を実施確認120秒後に艦砲射を開始します。」

「潜水艦隊目標地点に到達しました。」

「より60秒後に全弾発射しろ。ICBM（大陸間弾道弾）はどう

した。本国は何と言ってるんだ。」

「はっ240秒後には発射可能とのことです。」

怒号が飛び交う艦内に一人椅子に座り茫然とする場違いな格好の者がいた。

「あと5日程はこのように艦砲射と爆撃を続けそれから上陸となります。」

椅子に座る者に話かける軍人が一人。

「ハルゼーさん。」

そう話しかけた彼の名はウィリアム・フレデリック・ハルゼー。ブルとも呼ばれる軍人だった。

ハルゼーは情に厚い男だった。彼は行き倒れていた。原因は空腹。護衛とはぐれ三日三晩、水だけでしのいできたがついに限界がきて倒れたのであった。そこをモモ・タロに助けられた。その後ハルゼーは本国に掛け合い艦隊の派遣をもぎ取り大艦隊を引き連れ戻って来たのだった。

鬼対合衆国この一方的な蹂躪戦10日で終わるのだった。めでたくはない。

桃太郎（後書き）

ここまでお読みいただきありがとうございます。勘違いから当初の予定からズレましたが関係ないですよ。さてどうでもいいことですがモモ・夕口は日本読みで夕口モモです。夕口と読みます。何名の方がお気づきになれたでしょうか。

本当にどうでもよくてスイマセン。次回は狐と葡萄？です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7535h/>

エセお伽話

2010年10月9日14時47分発行